

いまの **博物館** はどうやってできたか

美術館・資料館

近代日本の文化を支えてきた

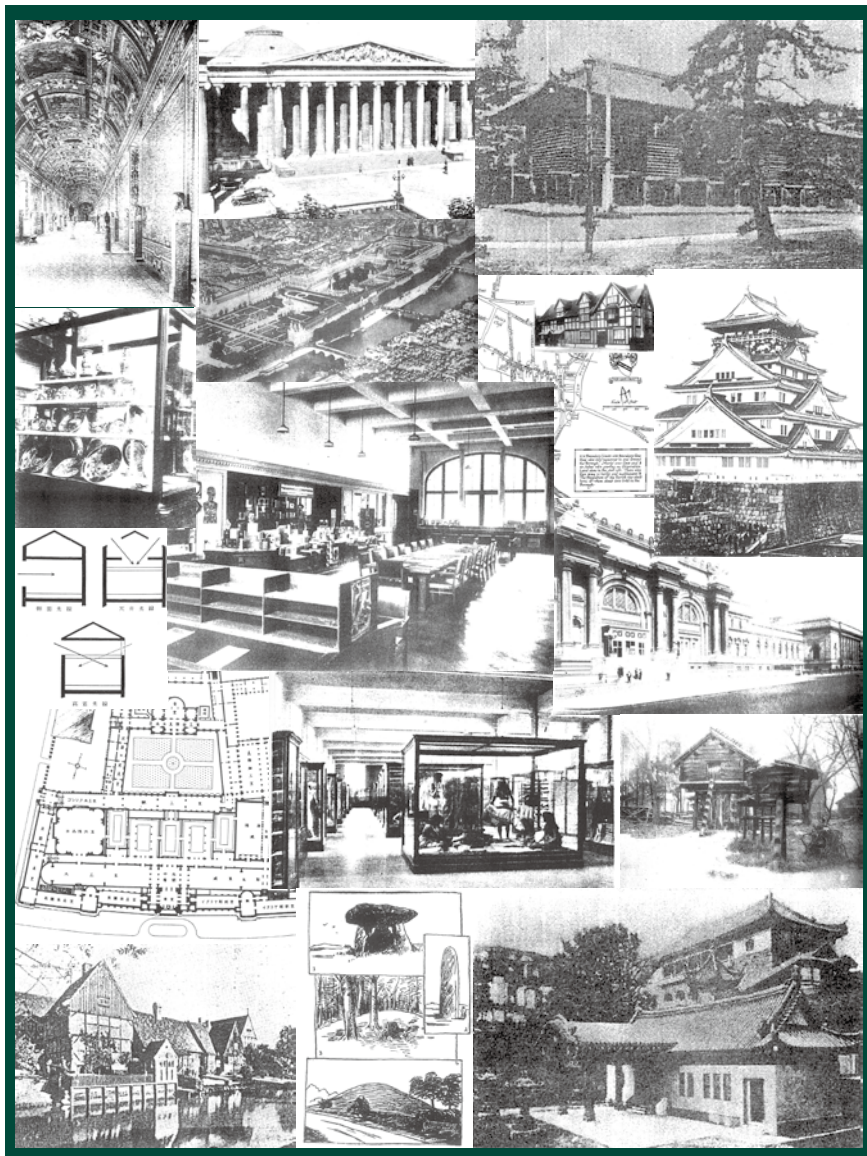
= 学術・産業〈叡智〉の貯蔵庫 = **博物館**

その理論・思想と実践の歴史を一望

〈社会教育・生涯学習〉の重要性が叫ばれるなか
継承・存続困難に直面する現実を克服するために
再読・再確認を！

公開・展示・収集・陳列・保存・管理・運営・建築・設備

多様な機能を見る



理論書・啓蒙書、教育・行政の発行物・統計資料、
パンフレット・案内書などを網羅的に復刻

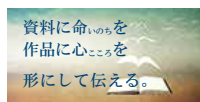
監修 伊藤寿朗 (天空社 1990、91 復刻刊行)

博物館基本文献集

全 21 巻
別巻 1

残部
数組

(2024.7)



www.ozorasha.co.jp

学術資料出版

天空社出版

博物館基本文献集

監修 伊藤寿朗 (大空社 1990-91 刊)

全 21 巻・別巻 1

刊行にあたって

(1990年)

伊藤寿朗 (東京学芸大学助教授)

日本の博物館は、明治維新とともに生まれ、近代日本とともに歩んできた。

その歴史は、国策に翻弄され、戦争で破壊し尽くされた、苦難の道のりであった。

制度の保障も、資金の裏付けも、国のシンボルである帝室博物館などを除けば、なかった。その中にありながら、博物館が主張し続けたのは、観光・娯楽施設ではない、ほかに解消されることのない、『目に訴へる教育機関』(棚橋源太郎著)としての自らの存在意義であった。

その主張が実り、博物館が公共機関として社会的に承認されたのは、一九五一年の博物館法成立であり、日本に博物館が登場して、実に七九年後のことであった。

『博物館基本文献集』は、博物館が組織的な取り組みを開始した一九二〇年代末から一九五〇年代までを主な対象に、理論書、啓蒙書などの単行本、パンフレット、戦前の海外植民地の館を含む案内書、統計資料などを網羅し、構成した。

いま、博物館はブームである。小規模な館を含めると四五〇〇館、年間入館者数は約三億人と、全映画館の入場者数の二倍以上にも上る。子どもや若者、主婦の人気は高く、国民の生活の中に定着してきている。

さらに、生涯学習の気運の高まりの中で、市民のアマチュアリズムの舞台として、新たな期待を寄せられている。

本書は、その足もとを問い直すための、初めての資料集である。博物館関係者のみならず、近代史、教育史を学ぶ人々にとっても、歴史の空白を埋める道標となることを確信している。

* 推薦します

歴史を再認識し、新しい博物館を創造するために

野村東太 (横浜国立大学教授・全日本博物館学会会長)

うっとうしい梅雨の続いていた或る日、戦前から敗戦直後の博物館資料を複製出版したいが推薦文を書いて欲しいとの電話があった。内容を聞くと、博物館創生期の第一人者棚橋源太郎先生の著書や文部省統計資料が中心で、伊藤寿朗先生が提供された資料とのこと、私も大変興味を持ち原著を讀ませて頂くことにした。大学が夏休みに入った暑い日に、出版社の方が原著を届けて下さり、その日から二週間かけて、これらを全部讀ませて頂くことになった。

戦前から敗戦直後にかけて出版されたこれらの資料は、日本のみならず世界の博物館の歴史を知る上に貴重な文献で、しかも、今日の博物館を理解する上の原点が在るように思われた。特に戦前棚橋先生が指摘された、在るべき博物館活動や管理運営の基本理念、さらに博物館建築の企画・建設上の基本姿勢には、我々が学ぶべき多くの点がある。

戦後45年、博物館法が制定され、学芸員制度も発足し、統計資料に見るごとく博物館の建設量も増し、一見豪華な建築も目に入る。しかし、博物館活動の社会教育的使命の確立、学芸員や職員の質向上や活動の活性化、学校教育をはじめ類似文化活動との分担・連携、管理運営の経済的・人事的な自立、博物館建築の基本的機能の確保等など、今日抱える問題点の多くが、50年、60年前に原著で指摘された内容と基本的に大差なく、たいてい進歩していないことを痛感せざるを得ない。

現在、博物館活動や博物館建築には問題が山積し、今や改新の曲がり角にきている。しかし、その多くは博物館関係者だけで解決できる問題ではない。この期に当たり、博物館関係者のみならず行政・文化・教育・建築・展示関係者もふくめ、過去の事実を再認識し、再出発することがきわめて大切であると思う。今回の複製版が多くの人々の目に触れることを期待したい。

博物館ブームを根底から問い直す

小川利夫 (愛知大学教授・名古屋大学名誉教授)

待望の『博物館基本文献集』が、最適な編者の多年にわたる労苦の結晶として、茲にようやく公刊されることになった。喜びにたえない。

伊藤寿朗さんは、十余年ほどまえに、若き博物館研究者の理論リーダーとして共編著『博物館概論』をまとめあげられたが、おそらく本基本文献集の骨格は、その頃すでに構想されていたにちがいない。その構想がさらに吟味され、あたためられ、ふくらまされて、茲に博物館については「初めての資料集成」が公刊されることになった。その構成は、理論書、外国紹介書、啓蒙書、さらに、パンフレット、ガイドブック、調査等、博物館の理論と実践の全面にわたって、入念に組み立てられえいる。

そこには、今日の博物館ブームを「その足もとから問い直す」とともに、市民の、市民による博物館づくりの実践と理論を創造しようとする伊藤さんの意欲と願望が脈打っている。それだけに、本文献集が博物館関係者のみならず社会教育関係者、さらに広く教育と文化、生涯学習の民主的な発展を求める人々の手によって吟味され、大いに活用されることを切望する。

*日本で博物館が組織的な取り組みを開始した1920から1950年代までを主な対象に
理論書、啓蒙書、紹介・解説・案内書（戦前の海外植民地の館を含む）
教育・行政機関による統計資料・施設一覧・講習会資料などを
網羅的に収集復刻

- 1 眼に訴へる教育機関 棚橋源太郎（1930）
- 2 郷土博物館 棚橋源太郎（1932）
- 3 仏蘭西博物館制度の調査 文部省（1929）
- 4 新博物館態勢 藤山一雄（1940）
- 5 博物館 浜田青陵（1929）
- 6 博物館講習会要項 文部省（1929）
年表 我国に於ける郷土博物館の発展（稿）
大日本聯合青年団郷土資料陳列所編（1936）
米国内各博物館の教育事業に就いて 星合正治（1932）
- 7 商品陳列所綜覧（第二回版） 商品陳列所聯合会編（1933）
- 8 欧米博物館の施設 後藤守一（1931）
- 9 常置観覧施設一覧（昭和四年） 文部省普通学務局
教育的観覧施設一覧（昭和五～一五年） 文部省社会教育局
教育的観覧施設一覧（昭和一七年） 文部省社会教育局
- 10 常置教育的観覧施設状況（大正五年十二年） 文部省普通学務局（1927）
- 11 世界の博物館 棚橋源太郎（1947）
- 12 新しい博物館 その機能と教育活動 木場一夫（1949）
- 13 博物館学綱要 棚橋源太郎（1950）
- 14 見学・旅行と博物館 木場一夫ほか（1952）
- 15 博物館教育 棚橋源太郎（1953）
- 16 博物館・美術館史 棚橋源太郎（1957）
- 17 博物館 棚橋源太郎（1949）
- 18 博物館のはなし 青木国夫（1957）
- 19 わたしたちの歴史研究 博物館 関忠夫（1957）
- 20 文化観覧施設一覧（昭和二十三年三月三十一日現在） 文部省社会教育局
昭和二十六年一月二十日現在 公私立博物館等調査表 文部省
博物館調査（昭和28年5月1日現在） 文部省
- 21 観光資源要覧 第四編・陳列施設 運輸省観光局（1957）
昭和二七年度学芸員講習講義要綱 文部省
学芸員講習講義要綱（昭和二八年） 文部省社会教育局

別巻

博物館学総論・各巻解説 他

伊藤寿朗先生のご逝去を悼む：『博物館基本文献集』の完結にあたって（野村東太）

I 博物館学総論（126頁）

鶴田総一郎（『博物館学入門』（理想社、1956・昭和31年）より・付「執筆した経緯」）

II 各巻解説（169頁）

棚橋源太郎著作解説〔1・2・11・13・15～17巻〕（君塚仁彦）/3巻（山崎晶子）/4巻（後藤和民）/5巻（黒尾和久）/6巻（北村敏・山崎）/7巻（小野一之）/8巻（武士田忠）/9・10巻（伊藤寿朗）/12・14巻（小野）/18・19巻（伊藤暢直）/20・21巻（伊藤寿朗）/21巻（伊藤寿朗・柘植信行）

病床の傍らで聞いたこと：伊藤寿朗先生と『博物館基本文献集』（君塚仁彦）

博物館関係単行書目録（志澤政勝編）（14頁）

〈博物館学の父・育ての親〉先駆者
棚橋源太郎（1869～1961）の著作7編
を収録（1・2・11・13・15・17巻）

1 眼に訴へる教育機関

棚橋源太郎 著

【宝文館、1930・昭和5年】 449頁

「博物館・動物園・水族館等が、学校教育・社会養育及び学芸の研究に欠くべからざる重要な機関」と宣言する（日本初体系的博物館論）▽機関発達の歴史／博物館の種類・職能／地方・郷土・教育・学校・児童・戸外博物館／動物園水族館／物品の蒐集製作整理保存／博物館の陳列・説明案内／博物館と学校教育／研究機関としての博物館／博物館の建築



国立科学博物館の前身である東京博物館の展示風景



国立科学博物館が前身となる東京博物館の展示風景

2 郷土博物館

棚橋源太郎 著

【刀江書院、1932・昭和7年】 274頁

市町村の地方・郷土色、民俗・土着的特色を持つ機関の様々な例を国内外に見る。▽郷土博物館の本質と職能／海外（独逸・英国・海外大都市）の博物館／本邦の郷土博物館／郷土博物館の建設維持／郷土博物館の事業（研究・学校教育・社会教育）

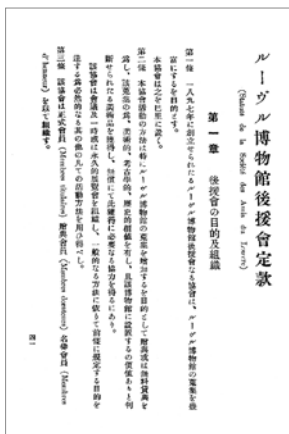


3 仏蘭西博物館制度の調査

文部省編

【文部省、1929・昭和4年】 182頁

社会教育局設置とともに国は本格的に博物館政策に着手、先進国の実態調査が始まる。▽国立博物館法人組織に関する大統領令／国立博文館並ループル学校の組織／ループル博物館後援会定款／国立博文館聯合の会計規則／1928年度国立博物館年報

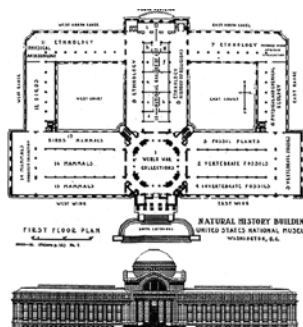


4 新博物館態勢

藤山一雄 著

【「東方国民文庫23」満日文化協会、1940・昭和15年】 246頁・折2

満洲国文化運動の一環として刊行されたシリーズの一冊。博物館を民族・文化的視点で広く紹介する啓蒙書。▽世界と日本の博物館をゲート博物館／ベルリン国立民俗博物館／北方博物館／慶州博物館／日本民芸館／エジプト博物館／シェークスピア博物館／フランス国立博物館／北米合衆国国立博物館／国立中央博物館大経路展示場／民俗博物館について／満洲国の博物館



5 博物館

浜田青陵 著

【「日本児童文庫54」アルス、1929・昭和4年】 240頁

著名な考古学研究者・浜田（1881～1938）による古典的名著。研究・教育機関としての博物館を。▽博物館とは・世界各国の博物館／考古博物館（考古学、石器時代、日本先史時代・原始時代室、朝鮮満洲の古墳室）



6 博物館講習会要項

文部省編 【文部省、1929・昭和4年】 40頁

年表 我国に於ける郷土博物館の発展（稿） 大日本聯合青年団郷土資料陳列所編「大日本聯合青年団、1936・昭和11年」40頁
米国内各博物館の教育事業に就いて（東京科学博物館報告 第一輯）星合正治著「科学博物館事業後援会、1932・昭和7年」89頁

美術館ト美術教育

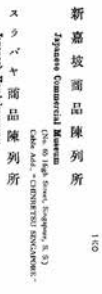
国民生活ニ於ケル美術

- 一、文化資料・世界美術
- 二、文化資料・世界美術
- 三、文化資料・世界美術
- 四、文化資料・世界美術
- 五、文化資料・世界美術
- 六、文化資料・世界美術
- 七、文化資料・世界美術
- 八、文化資料・世界美術
- 九、文化資料・世界美術
- 十、文化資料・世界美術
- 十一、文化資料・世界美術
- 十二、文化資料・世界美術
- 十三、文化資料・世界美術
- 十四、文化資料・世界美術
- 十五、文化資料・世界美術
- 十六、文化資料・世界美術
- 十七、文化資料・世界美術
- 十八、文化資料・世界美術
- 十九、文化資料・世界美術
- 二十、文化資料・世界美術



（第二回版）

国内外40施設の沿革、事業内容総覧。



〔帝室博物館、1931・昭和6年〕

後藤守一 著



文部省普通学務局（文部省）編 13頁

文部省社会教育局（文部省）編
計約240頁

文部省社会教育局（文部省）編 35頁

[illegible]

文部省普通學務局編「文部省、1927・大正6

常置の教育的觀覽施設梗概

棚橋源太郎 著

「大日本雄弁会講談社、1947・昭和22年」216頁



その機能と教育活動 木場一夫 著

〔日本教育出版社、1949・昭和24年〕249頁



● 中国书画函授大学肇庆分校

棚橋源太郎 著

「理想社、1950・昭和25年」319頁



木場一夫ほか著

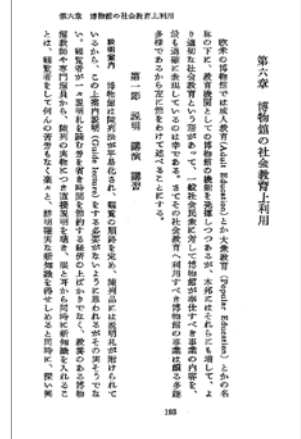
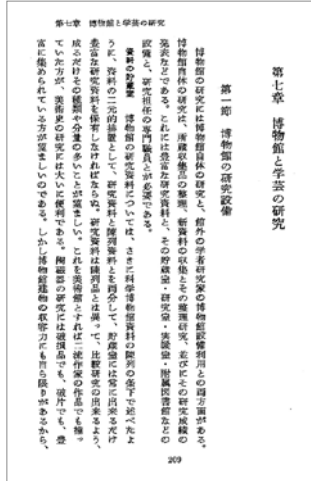
〔波多野完治監修・聴視覚教育新書6〕金子書房、1952・昭和27年 32頁
博物館教育（木場一夫）／見学指導（岩瀬俊助）／博物館（関忠夫）／遠足と旅行（岡義雄）／全国修学旅行地案内（浅井治平）



棚橋源太郎 著

博物館の発達、種類と機能、資料の収集保存、資料の陳列／博物館の児童青少年教育上利用・社会教育上利用／博物館と学芸の研究／機構及び管理、土地建物

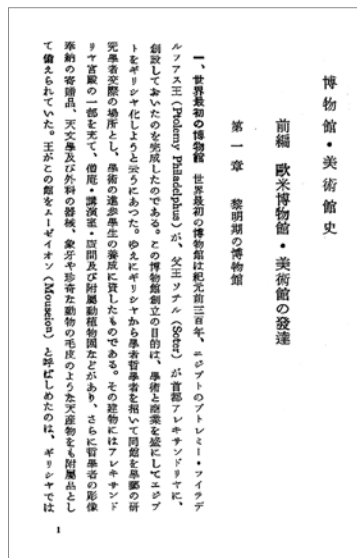
「創元社、1953・昭和28年」24頁



棚橋源太郎 著

〔米寿記念出版〕「長谷川書房、1957・昭和32年」184頁＋図版52頁

(前編) 欧米博物館・美術館の発達…黎明期、文芸復興期、17・18世紀、19世紀前半、第一次大戦まで・戦後、博物館の国際協力(後篇) 東洋博物館・美術館の発達…美術館の役をした本邦の社寺・封建時代の家庭美術館、明治時代前期の本邦博物館・美術館、明治大正時代、昭和の初めから大戦まで、太平洋戦争後、東亜南洋諸島



棚橋源太郎 著

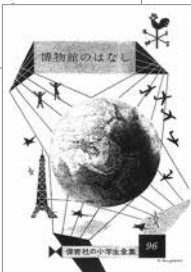
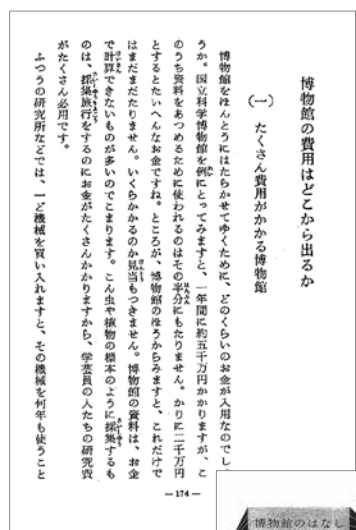
博物館の種類とその社会的役割／ヨーロッパの博物館はどのようにして発達したか／米・ソ博



青木国夫著

〔「保育社の小学生全集96」保育社、1957・昭和32年〕201頁

物を集めるたのしみ／博物館のはじまり／日本の博物館のおいち／世界の博物館／博物館の見学／うから見た博物館／たくさんの資料をどうあつめるか／むずかしい資料の保存／博物館ではたらく人びと／博物館の費用はどこから出るか／文化の発達のために



わたしたちの歴史研究 博物館 関忠夫著

「日本児童文庫53」アルス・日本児童文庫刊行会、1957・昭和32年」 228頁
大むかしの生活を考える／歴史のあゆみのなから／日本の博物館・世界の博物館



観光資源要覧 第四編・陳列施設

昭和二七年度学芸員講習講義要綱

「文部省、1952・昭和27年」 214頁

- ①教育原理(田尾) ②視聴覚教育(鈴木木) ③博物館概論(棚橋源太郎)
- ④博物館資料の分類と目録法 ⑤博物館資料展示法・自然科学…一般(中山道雄)、植物(小林)、地学、動物、動物園における展示法(古賀忠道)
- ⑥博物館資料収集保管法(野間清六)…鉱物の採集と保管(桜井)、化石の収集保管(尾崎)、青酸ガス燻蒸について(朝比奈貞)、植物園の資料収集保管、動物園の資料収集保管(古賀忠道)、動物標本収集法・製作法、資料収集保管法(黒沢)／収集保管・水族館(大島) ⑦社会教育概論(近藤春文) ⑧追補 博物館概論…管理・運営(深見古之助)／博物館資料(人文科学) 展示法(石沢正男)／博物館資料の分類と目録(石田茂作)

学芸員講習講義要綱(昭和二八年)

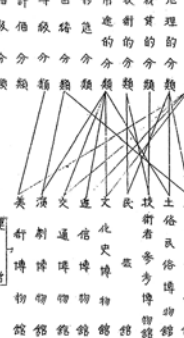
文部省社会教育局編「文部省、1953・昭和28年」 79頁

東京 都

電気博物館
所在地 千代田区三丁目
交通 有楽町線・丸の内線・丸の内線
開館 午前九時～午後五時(土曜・日曜・祝日)

万國の美術所有権資料館
所在地 千代田区三丁目
交通 有楽町線・丸の内線・丸の内線
開館 午前九時～午後五時(土曜・日曜・祝日)

逓信博物館
所在地 千代田区三丁目
交通 有楽町線・丸の内線・丸の内線
開館 午前九時～午後五時(土曜・日曜・祝日)



はしがき

昭和26年12月博物館法が制定されてから、漸次、博物館の振興が各地にたかまつつあることは、まことに御同慶に堪えない。
しかし、博物館が真に新しい博物館として国民の生活、教育、学術、文化、産業等に有効なはたらきをするためには、博物館の専門職員である学芸員の活動に負うところが多い。博物館法に規定する学芸員の講習もかような意味で、学芸員の職務遂行に必要な基本的問題を解明し、新しい博物館の健全な発展を期そうとするものである。
昭和27年はじめて、東京芸術大学においてこの講習が行われたが、これを契機に、講習講義内容を整理し、充実することが痛感されたので、関係者の検討研究をお願いして、この講習講義要綱を作成したものである。勿論完全なものとはいえないので、更に関係者の御協力を得てよりよきものにしたいと考えている。
最近、2,3の大学で博物館学の講座が設けられようとしているが、博物館学の研究とその確立を図ることは、博物館の発展を促進する上に極めて重要なことなので、大学及び関係者の御研究を切に希望したい。
この講習講義要綱作成に当って、関係者の方々が、公務御多忙にもかかわらず、積極的に御協力下されたことに対して、心から謝意を表する次第である。なお直接の関係者は次の通りである。

- 棚橋源太郎 丹羽 鼎三 小倉 謙 大島 泰雄
宮本肇太郎 古賀 忠道 杉田 光 佐竹 義輔
滝 庸 尾崎 博 朝比奈貞一 中山 道雄
深見古之助 石田 茂作 野間 清六 石沢 正男
鶴田総一郎

博物館基本文献集

監修 伊藤寿朗（大空社 1990-91 刊）

全 21 巻・別巻 1



(2024.7)

残部
数組

分売不可

* 配本分売応ご相談

〔体裁〕 A5/B5 判 上製・クロス装

全 21 巻・別巻 1 揃定価(本体 199,000 円 + 税)

第 1 期 9 巻 (第 1 ～ 9 巻) 4-87236-154-7 (大空社 1990 年 11 月)

定価(本体 84,000 円 + 税)

第 2 期 13 巻 (第 10 ～ 21 巻・別巻) 4-87236-174-1 (大空社 1991 年 7 月)

定価(本体 115,000 円 + 税)

高度経済成長と社会教育

辻 浩 編 978-4-86688-238-3 〈大空社出版 2024 年 1 月刊〉 A5 判・244 頁 定価(本体 2,700 円 + 税)

戦間期・占領期に次ぐ近代日本の大きな転換期「高度経済成長期」(およそ 1955 ～ 1975 年)。大量消費社会で発生した諸問題、その中で諸地域で展開された社会教育の実践・理論・政策を追い、「権利としての社会教育」が追求された意味を再確認、これからの日本社会の課題解決のために新しい理論的・実践的提起を目指す。11 人の研究者による共同研究。● 1 章 国民の学習権保障と社会教育 / 2 章 公民館報に見る住民がとらえた地域課題 / 3 章 教育福祉から見る青年期教育と家庭教育 / 4 章 生活構造の変容と学習・文化活動 / 補章 「経済成長と社会教育」の比較研究試論 / 付 高度経済成長期 社会教育関係年表



* 好評発売中

日本工業博物館史の研究

馬淵浩一 著 978-4-86688-236-9 〈大空社出版 2023 年 10 月刊〉 A5 判 265 頁 定価(本体 3,500 円 + 税)

明治以降、幾度となく提案されてきた日本の工業博物館設立計画、しかしいまだ実現されないのはなぜなのか？ 近代日本の博物館の歴史に刻まれる「工業博物館」構想に関わった官民・学術・教育の人々の営為を、膨大な史料文献・データを的確に整理し、鋭く歴史の核心に迫る。永年、博物館業務に従事してきた著者だからこそその視点で書かれたユニークな業績。各種変遷・概要・分類・数量データから組織・人物略歴・社会背景を明解に提示する有益・豊富な図表 54 点収載。読みやすい・明解な文章。



こと典百科叢書 54 巻・別巻 1
〈大空社 2010-16〉

〈1 項目 1 冊の百科事典〉日本文化・伝統の底力。いまに活かすべき知恵・技術の宝庫。日本らしいユニークなテーマ

* 資料進呈

学術資料出版
大空社出版

東京都北区中十条 4-3-2
(〒114-0032)
TEL:03-5963-4451
FAX:03-5963-4461
eigy@ozorasha.co.jp

お
取
扱
い